

公益財団法人 日本骨髄バンク 第 102 回 業務執行会議 議事録

開催方法:WEB 会議形式で開催

(本会議を WEB 開催することに関して全理事の同意を得た)

日 時:2025 年(令和 7 年)4 月 11 日(金)17:10~17:40

出 席:岡本 真一郎(理事長)、日野 雅之(副理事長)、浅野 史郎(業務執行理事)、
大西 達人(理事)、鈴木 利治(理事)、瀬戸 愛花(理事)、橋本 明子(理事)、
福田 隆浩(理事)、沓沢 一晃(監事)、藤井 美千子(監事)

欠 席:佐藤 敏信(副理事長)、石丸 文彦(理事)、高橋 聡(理事)、

陪 席:細川 亜希子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐)
高波 直樹(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室係長)
栗和田 統真(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室)
東 史啓(日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課課長)

事 務 局:小川 みどり(事務局長兼ドナーコーディネート部長兼医療情報部長)
田中 正太郎(総務部長)、関 由夏(移植調整部長)、水口 詞代(広報渉外部長)
鈴木 慶太(広報渉外部TL)、荒井 茂(総務部TL)

(順不同、敬称略)

1 開会

2 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第 6 条により、本業務執行会議が成立した。

3 議長選出

業務執行会議運営規則第 5 条により、業務執行会議の議長は理事長があたるとされ、岡本理事長が議長に選出された。

4 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第 8 条により、議長及び出席した構成員が記名押印する。岡本理事長、日野副理事長、浅野業務執行理事がこれにあたりとされた。

[議 事]

1 協議事項(敬称略)

(1)スワブトライアル 2.5 について … 荒井TL

前回は報告のとおり、現在トライアル 2.5 の実施を予定している。

令和 6 年度においてトライアル 2 として、200 検体のトライアルを実施したが、この際の検査会社 2 社の検査結果を比較したところ、有識者から追加の検査精度検証について指示を受け、トライアル 2.5 を実施する運びになったもの。

現在、岡本理事長を座長とし、HLA に詳しい医師や、臨床の医師等のメンバーのご協力をいただき、トライアル 2.5 の基準策定について審議を行っている。来週 16 日に Web 会議を開催予定。

この会議で最終的な研究計画を固め、日本赤十字社の HLA 委員会にもご意見を伺い、研究計画を確定させたい。これをもとに、厚生労働省にも報告し、5 月上旬に最終確定。倫理審査を受け、実際の被験者への声掛けは 5 月 15 日から。希望者に検体キットを郵送し、検査受け付け締め切りを 6 月上旬に、そのタイピング結果を 8 月に検証、というスケジュールを予定している。

(主な意見)

＜岡本＞ スワブという新しいテクニックを導入するうえで、少しサンプリングの問題等があるのではということで、慎重にこの 2.5 を設定し、評価のうえでトライアル 3 に進んで行こうということ。引き続き 2.5 を慎重に実施し、前に進んでいければと思う。

(決定事項)

特段、反対意見等なく可決。

2 報告事項(敬称略)

(1) 寄付金報告 … 水口広報渉外部長

令和 7 年 3 月は 927 件、1962 万円のご寄付をいただいた。令和 6 年度総件数は、1 万 3159 件、寄付金総額 2 億 4582 万 9120 円。3 月は年度末ということで、件数・金額ともに多くなっており、この中には、理事の皆様に対応いただいた寄付も含まれている。

今年度についても、すでに寄付を予定している企業があると聞いており、今後も寄付拡大に努めていきたい。

(主な意見)

＜岡本＞ これから色々な事業の拡大にバジェットは必要。引き続き頑張っていきたいと思う。よろしく願いたい。

(2) 採取件数・患者登録数報告 … 田中総務部長

令和 7 年 3 月の採取件数は国内 BM57 件、国内 PB36 件、国際 1 件、合計 94 件。令和 7 年度の合計採取件数は 1027 件。前年度より 66 件減となったが、予算設定としていた 1030 件にかなり近い数字となった。

国内の患者登録者数は年度合計 1869 名となっており、こちらは前年度より少し増加。

(3) 調整医師新規申請の報告 … 関移植調整部長

令和 7 年 3 月は、新規申請 5 名、異動・辞退 31 名、現在数 1209 名。

(4) その他(国際コーディネートについて) … 関移植調整部長

日本国内の患者が、海外ドナーから提供を受ける国際コーディネートについて。

現在は、海外ドナーからの提供は、アメリカ、台湾、韓国、中国の 4 つのバンクが可能。最近の海外ドナーから国内患者への提供数は、2023 年、2024 年が各 1 件ずつ。

この 4 つの提携バンクに限って実施してきたのは、サイトビジットを行い、契約を結ぶことで、患者の安全性を担保するという点から。他国からの提供を広げていくというニーズもなかった。4 つの海外バンク以外のコーディネートに対する問い合わせも数件であった。

一方海外では、いずれの国も他国からの提供に日本のような制限を設けていない。今後、提携 4 バンク以外のドナーから、JMDP も提供を受けることが可能となるように、条件や手続きの面について、検討を開始したい。

(主な意見)

<岡本> 当初、NMDP との連携から開始したが、その時はきちんと Mutual Search Agreement を結んで始めた。このような体制でやっていくというスタンスで連携を 4 バンクに広げた段階で、日本のバンクも成長し、相互に造血幹細胞をやりとりする状況が少なくなってきた。特に日本の HLA タイプはユニークのため、4 バンクのみと連携したままの状態。

一方海外では、各国のバンクが成長し、お互いにサーチをやり取りし、造血幹細胞を交換する方向に進んできている。各バンクについては、WMDA がクオリティ等の基準を設け、その状況を明らかにしているのも、今後 4 バンクにかかわらず、広く海外バンクへのリクエストをアクセプトしていくという方向に舵を切りたい、という趣旨。

<小川> これまでニーズがないと認識していたが、どこからでももらえるように門戸を広げたいと思っている。海外のサーチ画面に出てくるレジストリーが、きちんと担保されたレジストリーであるかを WMDA に確認するとか、料金確認手順とか、細かい運用を決めながら広げる方向に進めたい。

<岡本> このように、すべてフリーでやってしまうというわけではない。私たちの知らないバンクもあるので、WMDA を通して情報収集するとともに、料金に関しても情報を把握しながら、妥当かどうかを踏まえて、進めていきたいということ。おそらく、年に 1、2 件程度か。

<小川> 全国の医師に 4 バンクからしかもらえないとアナウンスしているため、そもそもリクエストしてこない可能性もあるので、もう少しだけ増えるかもしれない。

<岡本> 大幅に増えるとは思えない。グローバルコラボレーションという視点から、これまでのやり方を踏襲するのではなく、広く世界のバンクが連携している体制に入り込んでいき、日本骨髓バンクもグローバルコラボレーションに積極的に参画していく体制にしたい。

(5) その他(開業医の紹介について) … 小川ドナーコーディネーター部長

ドナー確認検査の調整開始から実施までを 2 週間以内にする、ということを今年度は目指している。背景として、多くの登録患者が、登録から 3 ヶ月以内の移植を希望しているということがわかっている。しかし、登録から移植までの中央値は 4 ヶ月。選定以降は採取施設の状況、患者の希望時期等に左右されるため、バンクとして努力できるのは、確認検査までの期間短縮である。

この確認検査を行う調整医師は 1000 人以上登録されているが、77%の医師は年間 10 件未満の引き受け。そこで開業医の調整医師を増やす方向で考えている。

一般病院では確認検査を依頼できるのは平日の日中であり、各医師の対応可能枠は例えば水曜日の午後のみなどと、多くの場合限られている。そのため、ドナーの都合ともなかなか合いにくく、調整が長引いて確認検査日が後の日程になってしまう現象が起きている。クリニックの場合、例えば外来に組み込むなど、やり方次第では対応可能曜日・時間を多く設定できる。リモート拡大によりドナーが 1 人で来院しても、クリニックなので迷わない。

また、確認検査の引き受けについて、医師個人との契約ではなく、安全性等担保の観点等から、バンクは病院との業務委託契約としたいが、一般病院で業務委託を結ぶためには、他の医師や院内の調整も必要で、これが広まっていない現状。クリニックであれば、開業医が 1 人で判断できる。

活動費についても、業務委託契約では一般病院は病院自体に支払われるため、調整医師には対価がない。クリニックであると、開業医自身への対価に多少はなる。

そこで、血液内科の出身の開業医をご紹介いただきたい。骨髓バンクから直接連絡し、調整医師活動を依頼したい。やり方次第では、医師に対応いただく時間は10分、15分以内で済むので、協力いただける医師が増えればと考えている。

(主な意見)

＜瀬戸＞ リモートに関しては、採血は簡単にできるので、開業医を巻き込んでいく方が便利だと思う。

ただし、何か質問があるときに対応できる制度を作っておいたほうがいい。

＜岡本＞ 基本的には血液内科関連の経験があって、開業している医師ということか。

＜小川＞ ステップワンとしてはそのように考える。ステップツーとして、血液内科以外でも、クリニックの医師に採血をお願いし、それとともに瀬戸理事提案の質問に対応可能な医師が、常駐に近い形で対応できれば一番よいと考える。

＜岡本＞ いきなりではなく、ステップアップでいく感じか。

一般病院は時間外は難しいと思うが、開業医は夜間も対応可能な場合がある等、ドナーの利便性にも合うようになるという理解でよいか。

＜小川＞ 開業医は、例えば土曜日に対応してくださる先生もいる。ドナーのニーズに合うと思う。

＜福田＞ 両者にとってよいと思う。何人か候補の先生を知っているので連絡する。

＜岡本＞ 理事やいろいろなメンバーに伝え、各医局から開業された方々などを集めてやっていくという形で、アピールをしていただければと思う。

(4) その他(オレンジ 30000 チャレンジについて) … 水口広報渉外部長

前回理事会で報告したオレンジ 30000 チャレンジについて、3月末を迎えて1万5000強のフォロー数となった。期間中4000人以上が新たにフォローしてくれたことになる。

ただし、目標の3万には遠く及ばなかったため、一旦延長ということで、4月中も様々な発信を続けていくこととした。現在は、制作したラジオ番組のつなげプロジェクトオレンジを各種Podcastの媒体に乗せ、これまでコミュニティFMでしか聞けなかったものがいつでも聞けるよう発信を行っている。

これから投稿になるが、バレーボールSVリーグ(旧Vリーグ)について、合計40シートを提供いただき、つなげプロジェクトオレンジシートと題して、骨髓バンクを応援してくださる方向けにシートを提供し、現場で普及啓発をしていくというようなことも実施予定。

また4月末にプレゼントキャンペーンなどの発信も続けていくので、引き続き骨髓バンクの公式のフォロー呼びかけをお願いする。

以上